

田村のつぶやき 第35号

2024.12.8 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

12月8日、今日は何の日？

久々の「今日は何の日？」シリーズです。12月8日と言えば…。1980年の今日、ビートルズのメンバーであるジョン・レノンが殺害されました。12月8日はジョン・レノンの命日です。

そして、1941(昭和16)年12月8日、日本陸軍がマレー半島上陸、さらに海軍がハワイ真珠湾を攻撃し、アジア・太平洋戦争が勃発した日です。真珠湾攻撃では「12月8日午前零時を期して戦闘行動を開始せよ」という意味の暗号電文「ニイタカヤマノボレーニ〇八」が打電され、戦艦アリゾナ等を撃沈しました。「ニイタカヤマ」とは当時日本で一番高い山であった「新高山」のことです。あれ？日本で一番高い山は富士山(標高3,776m)ではないのかと思ったそのあなた。実は、新高山は日本が日清戦争後の下関条約で割譲された台湾にある山(標高3,952m)です。当時の台湾は、日本の植民地統治下にあったので、1941年当時の日本で一番高い山と言えば、「新高山」のことでした。

さて、本来はワシントンで対米交渉にあっていた野村吉三郎、来栖三郎の両大使がアメリカ側に最後通牒を手渡してから攻撃を開始する手順になっていたのですが、暗号電文の解読・翻訳に時間がかかり、先に攻撃が始まり、結果的に「奇襲」攻撃になってしまいました。アメリカ側は「リメンバール・パールハーバー」を戦争遂行の合言葉にして、国内世論をまとめました。アメリカは日本の暗号を解読しており、F.ローズヴェルト大統領も真珠湾攻撃を事前に察知していたが、わざと攻撃させ開戦に消極的な国内世論を一気に戦争支持へもっていったという陰謀説もあります。しかし、それを証明する史料はないことから、研究者の多くが陰謀論は成り立たないという見解です。

歴史を考えていくには様々な視点が必要で、多面的・多角的なもの見方や考え方が求められます。例えば、コロンブスもヨーロッパの視点では「新大陸を発見した英雄」ですが、現地の人々(ネイティブアメリカン)にとっては「侵略者」「征服者」です。そもそもインディアンという呼び方自体が完全にヨーロッパ側からの一方的な見方です。コロンブスはインドに上陸したと思ったので、そこにいた現地の人々を「インディアン」と呼んだわけです。豊臣秀吉も日本国内では人気があり、大河ドラマでもよく取り上げられます。しかし、韓国・北朝鮮にとっては秀吉の朝鮮侵略(文禄・慶長の役)は、多大な被害を与えたため、秀吉は祖国を蹂躪した侵略者です。韓国併合の中心的役割を果たした伊藤博文も、日本では初代内閣総理大臣として有名で、かつては千円札の肖像画にも取り上げられていましたが、やはり韓国・北朝鮮では、植民地支配の元凶として見られています。逆に、その伊藤を射殺した独立運動家の安重根(アンジュン)は、日本では伊藤を暗殺した極悪人、現代風に言えばテロリストというイメージですが、韓国では命を懸けて祖国の独立を守り抜こうとした「義士」として高く評価され、記念館や銅像までつくられています。

まずは歴史的事実を事実として正しく知ること、理解することが大切です。そして様々な見方・考え方に触れることが重要です。歴史は「暗記物」ではありません。歴史を学ぶことで、過去を読み解き、「過去と現在の対話」を実践すること、つまり、「歴史を」ではなく「歴史に」学ぶことで現代社会を生きぬく「知恵」を見つけることができるのです。